

医用画像システム部会

部会長 高野 博明 副部会長 上田 智 副部会長 湯澤 史佳

1. 役割と基本方針

医用画像システム部会は、画像医療システムを中心とした画像医療IT産業の発展に向け、医療情報の利活用やソフトウェア等に関する規制緩和等についての提言、医療情報の相互運用性を高めるための標準化の推進、各種関連団体との協調活動等を行うことを基本方針とする。

また、当部会からGHS（一般社団ヘルスソフトウェア推進協議会）への委員派遣も行っている。

1.1 部会の組織と活動方針

当部会は、5つの委員会（モニタ診断システム委員会、セキュリティ委員会、DICOM委員会、画像診断レポート委員会とシステム教育委員会）、1つのWG（新画像医療IT産業推進WG）と、全体をマネジメントする本委員会で構成されている。また、セキュリティ委員会内のJIRA-JAHIS合同リモートサービスセキュリティWG（以下、RSS-WG）、JIRA-JAHIS合同開示説明書WG（以下、MDS-WG）、DICOM委員会内の12のSWG等にて、より専門性の高い活動を行っている。進捗は、委員長・WG主査より本委員会にて毎月報告され、部会長が月次報告として集約の上、政策企画会議で報告を行っている。各委員会・WGの活動方針を以下に示す。

(1) モニタ診断システム委員会

モニタ画像診断に携わる医療従事者及びその関連団体、JIRA会員等に向けて、医用画像表示の管理の大切さへの理解を広め、「医用画像表示用モニタの品質管理に関するガイドライン（JESRA X-0093）」の認知と実践への啓発活動を行う。同時にJART会員を対象に、モニタ表示管理の必要性や具体的手法を学ぶ精度管理セミナーを開催する。

(2) セキュリティ委員会

セキュリティおよびプライバシーに関する、国内外の関連規格/技術動向（厚生労働省ガイドライン、ISO/TC215 WG4、DICOM WG-14、IHE、SPC等）の情報交換と討議を行い、必要に応じてガイドラインの策定や国際標準化を行う。

(3) DICOM委員会

会員企業を代表して、DICOM Standards Committee（事務局米国NEMA MITA）に参加し、関連団体とともにDICOM規格の普及と臨床現場で必要となる画像情報関連規格の検討を行う。また、専門家やユーザを交えた検討、DICOMセミナー等の啓発的な活動を行う。

(4) 画像診断レポート委員会

データ移行や転送作業の負担軽減のため、異なるシステム間でデータを交換する手順の標準化、その普及促進のためのツール提供と広報活動を行う。

(5) 新画像医療IT産業推進WG

GHS活動、医機連・医療ICT推進WG活動、医用画像システムにおける、改正個人情報保護法への対応を検討する。

(6) システム教育委員会

医用画像システム部会の広報担当として、ホームページ運営、勉強会主催を主な活動とし、ITEMのJIRAブース企画展示等にも協力する。また、JIRA会報やJSRT等の学会誌や

民間医療情報誌等を通じて、当部会の活動を広く紹介する。

2. 2021年度の主な活動項目とその成果

2021年度の主な活動項目とその成果を、委員会・WGごとに紹介する。

2.1 モニタ診断システム委員会（委員長 前田 一哉）

(1) QAガイドライン（JESRA X-0093*B⁻²⁰¹⁷）の普及・啓発活動

- ・「第8回 JART・JIRA共催モニタ精度管理セミナー」は、準備するも2年連続で中止となる。
- ・品質管理の実態を論文化。RPT（Radiology Physics and Technology）への投稿を準備した。

<JESRA X-0093*B⁻²⁰¹⁷を引用・活用する規格・ガイドライン>

	団体・学会	規格・ガイドライン名称
1	JRS	デジタル画像の取り扱いに関するガイドライン3.0版
2	JIRA、JSRT、JART	放射線業務の安全の質管理マニュアルVersion1
3	日本医用画像管理学会	保守管理3-1-3 モニタ管理（HP上）
4	日本乳がん検診精度管理中央機構	デジタルマンモグラフィ品質管理マニュアル第2版
5	全国労働衛生団体連合会	胸部X線検査精度管理調査結果報告書
6	日本肺癌学会	肺がん検診のための胸部X線読影テキスト第II章

(2) 画像診断に安全を提供する医用モニタの協議

- ・2021年7月、「画像診断に安全を提供する医用モニタの協議TF」を、医用画像システム部会/法規・安全部会/標準化部会/経済部会にて発足。WG1/2での個別協議を行った。

(3) 品質管理の認知に向けた活動（診療報酬改定関連）

- ・診療報酬改定要望書（JART経由厚生労働省宛）の作成を行った。
- ・厚生労働省と医療機器業界の定期会合資料の作成を行った。

2.2 セキュリティ委員会（委員長 堀野 誠人）

(1) ISO TC215 WG4（Security, Safety and Privacy）、JWG7対応

- ・TC215 WG4会議（リモート開催）へのISOエキスパートにT-conで参加（1～2名）
 - 2021年04月13日、16日
 - 2021年06月17日 Plenary meeting
 - 2021年08月25日、26日
 - 2021年12月16日
 - 2022年06月06日 次回Plenary meeting
- ・規格検討への積極的な取り組み
 - 重要規格へのエキスパート登録を行った。
 - ドラフト内容の検討とJIRAとしての意見集約、NP/SRへの投票等を行った。
- ・委員会関与の規格提案
IEC/ISO TR 81001-5-2（旧IEC TR 80001-2-2）[医療機器のセキュリティニーズ、リスク及びコントロールの開示及びコミュニケーションの指針]：SBOM、リモート等のドラフトを作成した。

以下注目規格を示す。

- ・ ISO 27789 (Ed 2) : 監査証跡。DICOM Part15、IHE ATNAとの整合性
- ・ ISO/TR 11636 : 医療情報インフラとしてのダイナミックオンデマンドVPNについて。リーダーは日本
- ・ ISO/TS 20405 : 安全性に関するイベントの監視と分析、報告のフレームワーク
- ・ ISO/DTR 24306 : Personal Health Care システムのゲートウェイに関するセキュリティガイダンス
- ・ ISO/TS 17975 : 個人健康情報の収集、使用、開示に関する同意の原則とデータ要件
- ・ ISO 27799 : ISO/IEC 27002を使用した医療分野における情報セキュリティマネジメント etc.
- ・ JWG7関連 : ISO 81001-1, IEC 80001-1 Ed.2, IEC 81001-5-1, ISO/TS 82304-2 etc.

(2) MDS-WG 活動

- ・ 「製造業者による医療情報セキュリティ開示書 (=MDS)」ガイドの改定
 - MDS Ver.4.0 (JESRA TR-0039*C⁻²⁰²¹) を2021年10月に公開した。安全管理ガイドライン第5.1版とサービス事業者による医療情報セキュリティ開示書 (SDS: Service provider Disclosure Statement) に対応した。Ver.4.0にてHELICS化を申請し、審査が進められた。
 - SDS書き方セミナーを、2022年1月28日にオンラインにて開催した。

(3) RSS-WG 活動

- ・ 「リモートサービスセキュリティガイドライン」(JESRA TR-0034*B⁻²⁰¹⁶) Ver.3.0の改定
 - Ver.3.1のJAHIS版を2022年4月、JESRA版を2022年4～5月頃の発行を予定。
- ・ リモートサービスにおける注意喚起とさらなる対策支援
 - MDS-WGと連携し、リモートサービスに対するSDS記載例の作成を予定。

(4) DICOM WG-6 /WG-14対応

- ・ IETF BCP195の改定 (2021年3月) に伴う TLS Secure Transport Profile の見直し
 - TLS 1.0、1.1の非推奨を受けて、BCP195ベースプロファイルの見直しを検討中。

<プロファイル>

1	BCP195 TLS Secure Transport Connection Profile	-
2	Non-Downgrading BCP195 TLS Secure Transport Connection Profile	-
3	Extended BCP195 TLS Profile Secure Transport Connection Profile	JIRA提案 (2018年)

- JIRAは、高セキュリティ型 (=高い安全性の確保を必要とするケース) の要件を考慮したプロファイル、TLS暗号設定ガイドライン Ver.3.0.1 (Cryptrec/IPA 2020年7月公表) を提案した。

- ・ CP2148 Clarify audit trail messages
 - 監査証跡メッセージについて、多数の誤植修正を提案した。

(5) 医療機器のサイバーセキュリティ (各国法規、ガイドライン類に対して情報共有・周知活動)

- ・ 「医療機器のサイバーセキュリティ導入に関する手引書」の作成
 - 製販業者向けの手引書として、2021年12月24日に厚生労働省より発出された。
 - 製品ライフサイクル全体に渡って、安全性が受容可能なレベルに保たれているかの情報提供を行う。また、MDS、MDS2、SBOMのセキュリティ文書を活用し、リスクの把握を行う。
 - セキュリティ委員会のメンバーが“作成WG”に参加し、手引書(案)の作成に協力した。
 - 医療機関向け「サイバーセキュリティ導入に関する手引書(案)」へもコメントを提示した。

2.3 DICOM委員会（委員長 中野 信一）

(1) 修正提案 CPack

CPack-111から115 全84件をレビュー。賛成投票84件、コメント11件。反対・棄権 0件。以下に投票結果を示す。

CPack-#	件数	投票期限	審議月	投票結果
111	18	2021年05月24日	5月	賛成、コメント3件
112	18	2021年08月27日	8月	賛成
113	17	2021年10月27日	10月	賛成、コメント1件
114	17	2022年01月07日	1月	賛成、コメント3件
115	14	2022年03月16日	2月	賛成、コメント4件

上記以外にも、Sup（214、220、222、213、223、160、209、225、227）の投票に対応した。Sup214（CBCT RDSR）LB投票で13件、Sup209（DICOM C/S）PCで11件のコメントを実施。

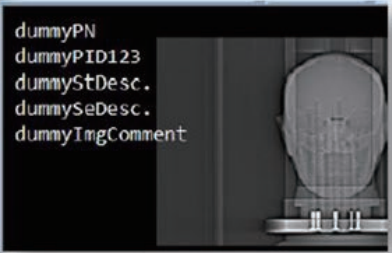
(2) JIRA発の提案

	内容	主な対象	成果・状況
1	CP1636：Specific Character Set 適正利用化	PS3.2	WG6やDSCへ定期報告中
2	CP2020：DICOMDIRの構造解説部の見直し	PS3.2	DICOM規格化（2020c）
3	CP2148：監査証跡メッセージの誤植訂正	PS3.15	CPack化に向けて検討中
4	CPxxxx：複数の線量指標使用への対応	PS3.16	ユースケースシナリオ抽出（歯科領域）
5	JJ1017へのリンク情報の見直し	PS3.16	JSRT JJ1017班へ情報提供完
6	Supxxx：IETF BCP195改定に伴う見直し	PS3.15	Sup204/206を含め改定提案

(3) 匿名化等標準サンプル作成

- ・ 目的は、DICOM規格 PS3.15の第E章の匿名化プロファイル、画像医療システムにおける匿名化技術ガイド（JESRA TR-0045²⁰¹⁸）※に沿ったものを作成し公開すること。対応をほぼ完了した。※当委員会はDICOM規格として第5章の制定に関与した。

Group	Element	Description	VR	Size	Value
0008	0050	Accession Number	SH	24	SWG-06_Accession Number
0010	0010	Patient's Name	PN	22	SWG-06_Patient's Name
0010	0020	Patient ID	LO	18	SWG-06_Patient ID
0010	0021	Issuer of Patient ID	LO	28	SWG-06_Issuer of Patient ID
0010	0030	Patient's Birth Date	DA	28	SWG-06_Patient's Birth Date
0010	0040	Patient's Sex	CS	20	SWG-06_Patient's Sex
0010	1002	Other Patient IDs Sequence	SQ	FFFFFFFF	(Sequence Data)
0010	1010	Patient's Age	AS	20	SWG-06_Patient's Age
0010	1020	Patient's Size	DS	22	SWG-06_Patient's Size
0010	1030	Patient's Weight	DS	22	SWG-06_Patient's Weight



(4) DICOMセミナーの開催

- ・ 初心者セミナー「接続で知っておきたい事」を、2021年7月2日開催。32名参加。
- ・ 中上級者向けセミナー「DICOM Update 2021」を、2022年2月4日/5日開催。65名参加。

(5) 海外委員会参加、規格審議、サブワーキング活動

- ・ DSC（3回/年）、WG-06（Base Standard、5～6回/年）へT-conにて参加。
- ・ 他WG（WG-07/14/29/31）へ、可能な範囲でT-conにて参加。
- ・ 委員会内サブワーキング活動（SWG-01～12）。

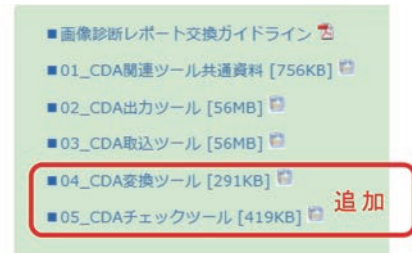
2.4 画像診断レポート委員会（委員長 原 真）

(1) CSV⇒CDA変換ツールの提供

- ・CDA作成の簡易化、ユーザーによるレポートの2次利用への対応を推進した。

(2) 標準化活動

- ・画像診断レポート交換手順ガイドライン（JESRA TR-0042*A⁻²⁰¹⁸）の見直しを行った。
- ・2021年10月、「画像診断レポート交換ガイドラインと各種ツール」の追加公開を行った。
https://www.jira-net.or.jp/publishing/diagnosis_report.html



(3) ガイドラインの普及活動

- ・放射線画像診断レポート交換手順ガイドラインとツールの紹介パンフレットを作成した。
- ・「放射線画像診断レポート交換手順ガイドライン」利用範囲の拡大を検討した。

(4) その他

- ・各放射線科以外のレポートに関する標準化動向、他団体の動きについて調査した。

2.5 新画像医療IT産業推進WG（主査 上田 智）

(1) GHSの活動

(a) GHS開発ガイドラインの啓蒙・教育活動（オンライン開催）

- ・リスク分析入門セミナー：2021年8月23日開催。申込：27名
- ・リスクマネージメント・トレーニング講座：2021年11月1日開催。申込：10名。
- ・GHSマーク登録：累計87件
- ・ビデオラーニング：Cセット（コンテンツ1～4全部）=2本

(b) GHS制度の普及・広報活動

1	メルマガ配信	新規登録=14名、累計=223名、計2回配信
2	リーフレット作成・配布	なし（展示会への出展見送り）
3	ホームページNEWS欄	2件の記事を掲載
4	ビデオラーニング試聴用ID取得数	新規取得=2件、累計55件
5	ドキュメント開封パスワード請求数	新規請求=79件、累計321件
6	外部講演	なし（展示会への出展見送り）

(2) 医療情報の利活用活動

医療機関から画像データを受け取り、利活用する上で、個人情報保護法において注意が必要な実務に関するガイド「医用画像の利活用における取り扱いに関する実務ガイド」（JESRA TR-0047⁻²⁰¹⁹）について、改正個人情報保護法（国会承認・公布（2020年6月15日）版）対応に伴い、JESRA TR-0047*A⁻²⁰²¹への改定を実施。

2.6 システム教育委員会（委員長 櫻井 三起子）

(1) 医用画像システム部会の教育・広報活動としてホームページ運用担当

- (2) Web-ITEM2021の医用画像システム部会紹介ページの準備
- (3) 「DATA BOOK 2022 図表で見る画像医療システム産業」の継続発行における加筆修正等
- (4) 医用画像システム部会内委員会主催セミナー・勉強会等の開催支援
- (5) 夏の勉強会、医用画像システム部会成果報告会/特別講演会
 - (a) 夏の勉強会（2021年8月25日、オンライン）
 - ・講演1
 - 「COVID19への対応と今後の在り方（医療機関/学会として）」
 - 講師：国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 奥田 保男先生
 - ・講演2
 - 「個人情報に配慮した画像診断支援AIの開発：特に連合学習について」
 - 講師：総合医科学研究センター超音波応用開発研究部 部長
東京慈恵会医科大学 准教授 中田 典生先生
 - (b) 医用画像システム部会成果報告会/特別講演会（2022年3月3日、オンライン）
 - ・部会長、各委員長による2021年度成果報告
 - ・特別講演
 - 「ラジエーションハウス ～はじまりから劇場版までのキセキ～」
 - 講演者：漫画「ラジエーションハウス」監修
TVドラマ「ラジエーションハウス」スーパーバイザー
福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科准教授
五月女 康作先生

2.7 本委員会

各委員会・WGの月次でのフォローを行った。JIRAワークショップ「PACS更新における勘所」を開催した。JIRAトピックス7月号にて「医用画像システム部会の活動とAI活用基盤整備」、JIRA会報No.213にて「画像診断装置等における医療DX推進に向けた取り組み」を掲載した。厚生労働省の医療等情報利活用WG、保健医療情報標準化会議の構成員として活動した。

2022年度は、新画像医療IT産業推進WGを廃止し、本委員会にて対応する計画とした。

3. 2022年度の活動計画概要

JIRA医用画像システム部会は、Society 5.0・データ駆動型社会への変革に向け、医療・ヘルスケア分野にてビッグデータ・AI（人工知能）・IoT等を含めたICTの利活用が進展していることに伴い、画像医療システムにおけるセキュリティ対策、個人情報保護、法規制対象外ヘルスソフトウェアの安全確保や診断装置の最適化等、AI活用に必要な対策の検討に取り組んできた。

2019年4月、JIRAは「JIRA画像医療システム産業ビジョン2025（以下、JIRAビジョン2025）」を策定。当部会は、「JIRAビジョン2025」の実現を指針とし、JIRA内外の組織との連携体制、新たな医療産業分野との連動を強化しながら、医療情報の利活用の促進、AI活用基盤整備による「医療の質・安全性の向上と医療機器産業拡大への貢献」を目指すことを「中期（3年）の活動方針」に掲げた。特に、画像医療システム・サービスの海外市場での競争力の確保に向けて、国際標準化を成果目標としている。

一方、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響が長期化するなか、日本におけるデジタル技術活用の重要性に対する認識の高まりにより、データ駆動型社会の実現、データサイエンスを用いたビジネスモデルへの転換やデジタル庁創設によるデジタル社会形成の推進等、DX

(Digital Transformation) 推進への取り組みが加速しつつある。画像診断においても、放射線科医（画像診断の専門医）の不足と地域偏在、医師の働き方改革への対策として、遠隔画像診断、地域医療連携、あるいは診断装置等の負荷軽減対策、画像診断支援等の一層の発展が期待されている。

こうした状況を踏まえ、2022年度は、ウィズコロナ・ポストコロナにおけるニューノーマルに向け、「DXの拡大」、「医療従事者の業務効率向上への貢献」を目指し、重点課題として「画像診断装置等における医療DX推進に向けた取り組み」を進める。具体的には、「画像医療システムの情報セキュリティ・サイバーセキュリティ対策」、「非医療機器、法規制対象外ヘルスソフトウェアの安全性・品質確保対策」によるAI活用基盤整備、ならびに「画像診断装置等の最適化」に関する情報発信・提言を推進する。また、重点課題とのバランスを取りながら、モニタ精度管理、DICOM、レポート関連のJIRA標準類の整備、教育・普及活動等、より高い専門性の要求される活動も継続していく。

<医療の質・安全性の向上と医療機器産業拡大に向けた課題>

課題		対応
安全	情報の安全性確保	・情報セキュリティ対策、個人情報保護 ・サイバーセキュリティ対策 ・ヘルスソフトウェアの安全確保
	診断装置の最適化	・機器更新、メンテナンス ・モニタ精度管理 ・被ばく線量管理（システム）
質	医療情報の利活用	・医療情報の正確で迅速な共有、ICT化、5G ・レポートシステムの適正化 ・AI活用（データ活用基盤構築）、DX

以下に、各委員会・WGの2022年度活動方針（課題/ゴール）を記載する。

3.1 モニタ診断システム委員会

(1) QAガイドライン（JESRA X-0093*B⁻²⁰¹⁷）の普及活動

- ・逆引きDICOM Book Plusを有効活用した、モニタと品質管理の啓発活動。
 - ・アンケート調査結果を、専門誌や学会誌に投稿・発信する。
 - ・「医療安全」を目的として、様々な方向性でのJIRA内協議を推進する。
- 「画像診断に安全を提供する医用モニタの協議TF」の継続開催。

目的（JIRAアウトプット）		協議事項
安全	情報発信・提言	・モニタの対象範囲（仕様or用途、モダリティ等） ・医療事故時の機材条件と責任の所在整理 ・プログラムの添付文書の書き方（動作環境の情報等）
	モニタ精度管理	・診断に必要とするモニタ仕様のベースライン ・医療機器システムの管理に対する認識調査

(2) 啓発・普及活動

- ・「第8回 JART・JIRA共催モニタ精度管理セミナー」を開催する。
- 開催場所の変更及びデモ内容の見直し。

(3) 診療報酬改定（品質管理の公認）に向けた活動

- ・JART診療報酬政策立案委員会とのディスカッション。
- ・診療報酬改定に意見する外部有識者との協議。
- ・成果につなげるための新たな活動計画の立案。

3.2 セキュリティ委員会

- (1) ISO TC215 WG4 (Security, Safety and Privacy)、JWG7対応
 - ・WG4及びJWG7対応も含め、継続的に活動が続ける。
- (2) MDS-WG 活動
 - ・必要に応じて、MDS (JESRA TR-0039*C⁻²⁰²¹) Ver.4.0を改定する。
 - ・製販企業側、医療機関側が共にMDSによる安全管理の確認が行えるように周知を行う。
- (3) RSS-WG 活動
 - ・MDS-WGと連携し、リモートサービスにおけるSDS記載例の作成等を通じて、増加するセキュリティの脅威に対して徹底した対策の促進を普及させる。
- (4) DICOM WG-6 /WG-14対応
 - ・セキュリティ関連について、継続してDICOM委員会と共同で対応を進める。
- (5) 医療機器のサイバーセキュリティ
 - ・サイバーセキュリティ関連についての最新情報を常に収集し共有するとともに、対応について「手引書」制定、普及等を行うことで製販企業側、医療機関側の対策の強化を促進する取組みを実施する。その他にも、各国法規やガイドライン等の情報収集を行い、情報提供や対応を行っていく。

3.3 DICOM 委員会

- (1) 修正提案 CPack (DICOM規格制定/拡張/改定)
 - ・DICOM規格の改定・修正投票の内容を検討し、会員企業の要望を踏まえて投票する。
 - ・MITAの主催するDICOM会議に積極的に関与し、工業会としての立場を確立する。
 - ・会員企業の要望を元にDICOM規格の改定・修正を提案する。
 - ・活動に必要な、委員会参加メンバー(リソース)を確保する。
- (2) 患者氏名表記について
 - ・関連工業会との共通認識醸成。
- (3) 匿名化等標準サンプル作成
 - ・サンプルデータの完成・開示。
- (4) 海外委員会参加、サブワーキング活動、規格審議、セミナー等
 - ・DSC(3回/年)、WG-06(Base Standard、5~6回/年)へT-conにて参加する。
 - ・DICOM規格や会議録の翻訳と解説資料の作成を通じて、会員企業に情報提供を行う。
 - ・DICOMセミナー/外部講演への講師派遣の持続化。

3.4 画像診断レポート委員会

- (1) 画像診断レポートの標準化、各ツールの開発
 - ・異なるベンダ間でのレポートデータの互換性及びシステム接続を確保するための方式についての検討を継続。必要に応じて、これまでに作成した、画像診断レポート交換手順ガイドライン、データ交換フォーマット、CDA入出力サンプルプログラム等を改定する。
- (2) ガイドライン類の更なる普及に向けた利用範囲の拡大検討
 - ・患者へのデータ提供、患者紹介、地域連携、遠隔読影等への応用を検討する。
 - 遠隔読影は、医療IT専門WGと連携(WG参加、利用推進)する。
 - ・本ガイドラインに関連する国際標準や他団体の動きについての調査を行う。
- (3) 放射線科以外のレポート関連の標準化動向、他団体の動き、海外標準化動向の調査

3.5 システム教育委員会

- (1) 医用画像システム部会の教育・広報活動としてホームページ運用を担当する。
- (2) Web開催のITEM2022において、医用画像システム部会エリアの運営準備を担当する。
 - ・医用画像システム部会の活動紹介パネル（電子版）作成。
 - ・GHS開発ガイドライン関連のパンフレット（電子版）の掲載。
 - ・IHE活動に関するパンフレット（電子版）の配布。
- (3) 「DATA BOOK 2023 図表で見る画像医療システム産業」における加筆修正を担当する。
- (4) 医用画像システム部会内委員会主催セミナー・勉強会等のオンライン開催を支援する。
- (5) 夏の勉強会、医用画像システム部会成果報告会/特別講演会をオンラインにて開催する。

3.6 本委員会

医療情報の利活用の促進、AI活用基盤整備による「医療の質・安全性の向上と医療機器産業拡大への貢献」を目指し、引き続きヘルスソフトウェアの安全性とセキュリティの確保に関するリスク対策、個人情報保護への対応、医療情報の相互運用性を高めるための活動、及び重点課題への活動を推進する。本委員会を月度で開催し、各委員会・WGでの進捗確認と課題解決に向けた検討を支援する。

- (1) 各委員会・WGでの進捗確認と課題解決に向けた検討を支援する。
- (2) 行政機関との関係強化と画像医療関連業界としての提言を進める。
- (3) 各委員会の教育・普及活動、展示会対応等の推進・援助を行う。
- (4) 法規制対象外ヘルスソフトウェアの安全性・品質確保対策の検討を推進する。
- (5) 医療IT産業発展のための新規課題の設定・取り組みを推進する。
- (6) ウィズコロナ・ポストコロナでの活動の円滑化、人材育成に向けた取り組みを支援する。